別紙様式2号

2．整備事業
（産地競争力の強化を目的とする取組）

【H22実施地区　目標年度地区　3地区】

（北海道　平成24年度）

支庁名	市町村名	事業実施主体名	政策目的	取組の分類	作物等区分①（対象作物・畜産等名）①	政策目標①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況① 計画時（平成21年）	1年後（平成22年）	達成率	2年後（平成23年）	達成率	3年後（平成24年）	目標値（平成24年）	達成率	成果目標の具体的な実績 3年後（平成24年）	作物等区分②（対象作物・畜産等名）②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況② 計画時（平成21年）	2年後（平成23年	達成率	3年後（平成24年）	目標値（平成24年）	達成率	成果目標の具体的な実績 3年後（平成24年）	事業内容（実績）	事業費（円）	負担区分（円）交付金	完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
オホーツク	美幌町	美幌町農業協同組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物（小麦）】	生産性向上	【土地利用型作物（小麦）】 （は種前契約数量に関する目標） 民間流通におけるは種前契約の数量を25.7%増加	11,419t(5中3)	－	－	14,370t	100.4%	14,657.0t	14,357t	110.2%	は種前契約数量の割合が28.4%増加した。	【土地利用型作物（小麦）】	【土地利用型作物（小麦）】 （品質向上に関する目標） 国内産小麦の加工適性試験（100点満点）において、総合評価得点が2ポイント増加	71.6点（H20年産ホクシン）	73.5点	95.0%	71.9点	73.6点（H24年産きたほなみ）	15.0%	国内産小麦の加工適性試験の総合評価点が0.3ポイント増加した。	穀類乾燥調製貯蔵施設（増設） 調製貯蔵施設　1棟 荷受設備　40t×3系列 乾燥設備　80t×2基 貯留設備　8ﾋﾞﾝ×4系列＝32ﾋﾞﾝ 貯蔵設備　650t×5基 調製設備　12t/hr×1系統 ﾄﾗｯｸｽｹｰﾙ設備　一式	2,173,500,000	971,951,000	23. 3.31	穀類乾燥調製貯蔵施設整備により受入・乾燥・貯蔵が向上したことで、圃場から適期に収穫された小麦をスムーズに受入・乾燥・貯蔵することができた。利用量については、小麦作付け面積を達成しているものの「きたほなみ」の面積増等の要因により未達成となった。ただし、小麦作付け面積とともに利用量は増加傾向にあり播種前契約も増加しているため、今後、農業改良普及センターと連携し栽培技術向上（指導）の徹底を図り、反収増に取り組むことで目標を達成したい。貯蔵施設保管増により営業倉庫への集約保管を回避する計画であったが、需給環境の変動により出庫が捗らず集約保管量が増加している。 （H22:50t、H23:1,191t、H24:1,537t）上位1品種以外の品種作付けについては、H24年は16.6%となっているが、H25年の作付予定面積（秋小麦：共済引受面積、春小麦：営農計画面積）においては38%（上位1品種1,542ha、その他947ha計2,489ha）と、目標を達成することが見込まれている。また、加工適正ポイントについても目標値を下回っているが、事業計画時より0.3点増加し、北海道平均よりも上回っていることから本事業の効果が発揮されつつある。今後も、農業改良普及センター等の関連機関との連携を深め、目標達成に向け引き続き取り組む。	成果目標のうち、「上位1品種以外の合計割合が25%以上」については、目標達成することができなかったが、年々増加傾向にあり、平成25年度には達成できる見通しである。また、加工適正ポイントについては、天候等の影響により平成23年度の実績より1.6点下回り、目標達成に至らなかったが、事業計画時より増加し、北海道平均よりも上回っていることについては評価できるところである。今後も農業改良普及センター等の関連機関との連携を深め、目標達成に向け引き続き取り組む。	
							【土地利用型作物（小麦）】 （作付面積比率に関する目標） 用途が異なる複数品種又は麦種による作付体系へ転換するため、上位1品種以外の合計割合が25%増加	0.0%	－	－	12.0%	48.0%	16.6%	25.0%	66.4%	上位1品種以外の作付面積の割合が16.6ポイント増加した。																
十勝	幕別町	幕別町農業協同組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【畑作物・地域特産物（馬鈴しょ）】	生産性向上	【畑作物・地域特産物（馬鈴しょ）】 （ｼﾞｬｶﾞｲﾓｼｽﾄｾﾝﾁｭｳの新規発生率に関する目標） ｼｬｶﾞｲﾓｼｽﾄｾﾝﾁｭｳの新規発生率を8.1%以下に抑制	0.744%	0.744%	115.1%	0.756%	114.4%	0.755%	1.0%未満	114.4%	シストセンチュウの新規発生率は目標を満たし、1.0%未満となった。	【畑作物・地域特産物（馬鈴しょ）】	【畑作物・地域特産物（馬鈴しょ）】 （ｼﾞｬｶﾞｲﾓｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ発生ほ場のシスト密度に関する目標） ｼｬｶﾞｲﾓｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ発生ほ場のシスト密度を5%以上低減	9.0ｼｽﾄ	16.0ｼｽﾄ	-350.0%	7.0ｼｽﾄ	7.0ｼｽﾄ	100.0%	シスト密度の削減目標を達成した。	農作物被害防止施設 者朗洗浄装置一式　2基	38,010,000	17,240,000	23. 3.30	導入時の目標が達成され、蔓延を防止できた現状にあることから、当該施設の効果は相当と認められる。また、今後とも新規発生の抑制に努めていく。	事業の目的は達成された。今後も適切な施設利用とあわせて、事業目的が継続されるものである。	
十勝	帯広市	帯広大正農業協同組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物（小麦）】	生産性向上	【土地利用型作物（小麦）】 （は種前契約数量に関する目標） 民間流通におけるは種前契約の数量を25.8%増加	15,519t(5中3)	17,799t	56.8%	19,619t	102.2%	19,412t	19,530t	97.1%	は種前契約数量の割合が25.8%増加した。	【土地利用型作物（豆類）】	【土地利用が他作物（豆類）】 （豆類の新品種の作付面積割合に関する目標） 豆類（小豆）の新品種（きたろまん）の作付割合が20.4ポイント増加	① 小豆　535ha ② きたろまん　85.5ha ③ 作付割合　16.0%	① 684ha ② 61.0ha ③ 8.9%	-34.8%	① 739ha ② 256ha ③ 34.6%	① 小豆　535ha ② きたろまん　195.0ha ③ 作付割合　36.4%	91.2%	豆類（小豆）の新品種の作付割合が18.6ポイント増加した。	穀類乾燥調製貯蔵施設 調製貯蔵施設　1棟 荷受設備　40t/hr×2系列 乾燥設備　66t/hr×2基 貯留設備　80t×36基＝2,880t 調製設備　5t/hr×2系列 12t/hr×1系列	2,530,500,000	1,082,284,000	23. 5.25	施設導入により、小麦新品種である「きたほなみ」に全面作付移行が可能となる。施設の処理能力向上に伴い、適期収穫－荷受－乾燥－貯蔵の作業効率が改善され、麦調整後の豆類への調整がスムーズに進行している。また、豆類調整において、従来まで能力不足のため外部委託加工していた大手と、大豆を当施設においての調整が実現となった。 小麦については、播種前契約数量でみると計画時（H20）の15,519tから25.1%増の19,412t。事業目標19,530tに対しては19,412tと目標数値を99.4%実現している。 小豆については、目標年に向け、高収量のきたろまんに品種転換を推進。小豆全体の作付面積において目標535haに対し、38.1%増の739ha。うち品種きたろまんについては目標195haに対し、31.3%増の256haと増加している。 小麦および豆類については今後の日本農業において重要品目とされることから、計画的な生産体制を今以上に徹底し、生産拡大に繋げていきたいと考えて	概ね目標は達成されているが、引き続き目標達成に向けた取組状況を注視していく	
							【土地利用型作物（小麦）】 人工衛星による航空画像を活用し、雨害回避・刈取時期の適期把握により、効率的な収穫を目指す	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	航空画像を受益地全てで活用できた。															
新規	3地区																										4,742,010,000	2,071,475,000				